

夜明け前　　ゝまどう意識と沈むからだゝ

山口仁史　令和七年八月二四日

夜明けにはまだ早い　　目覚めるにはまだ早い

小窓から舞い込む風の涼しさを感じ　　静寂と黒い夜につつまれる

長い長い貨物列車の軋（きし）む音を遠く微（かす）かに耳にする
暗い森から舞い込む鳥たちの叫声があちらこちらから聞こえる

鼓動が静かに体（からだ）を揺らす

闇が微睡（まどろ）みと混ざり合い

言葉が見つからないまま身体（からだ）が沈む

夜の影が夢をさそい昏睡がおとずれる

寝静まる団地を駆け巡るバイク音　朝刊配達が街の営みを合図する

夜明けにはまだ早い　　覚醒するにはまだ早い